

1985年農業センサス結果の概要

1. 概 況

昭和60年2月1日現在で実施した本調査の概要は、次のとおりである。

総農家数は164,353戸であり、前回(昭和55年)と比較すると、8,565戸(5.0%)減少した。

総農家数を専業・兼業別にみると、専業農家は22,314戸(構成比13.6%)、第1種兼業農家は37,652戸(構成比22.9%)及び第2種兼業農家は104,387戸(構成比63.5%)であった。昭和50年の調査と比較すると、専業農家は微減し、第1種兼業農家は40.7%と大幅に減少し、第2種兼業農家は微増の傾向にある。

総人口が増加している中において総農家人口が減少したため、農家人口率は昭和50年38.6%、55年33.2%、60年29.3%と、調査年ごとに低くなっている。(表-1、表-2)

2. 農産物販売金額規模別農家数

総農家数を農産物販売金額規模別にみると、販売金額が300万円未満の農家は、前回と比較すると10,983戸(7.2%)減少し142,341戸となり、販売金額が300万円以上の農家では2,418戸(12.3%)増加し22,012戸となった。中でも販売金額が1,500万円以上の農家が、前回と比較すると788戸(101.9%)増加し、1,561戸となり、大規模経営農家は増加の傾向にある。

構成比をみると、販売金額100万円未満(販売なし農家を含む)の農家は全体の57.6%を占め、前回の57.0%とほぼ同じ割合であり、小規模農家が全体の過半数を占めている。

3. 経営耕地面積

総経営耕地面積は171,451haで、その内訳は、田が99,950ha(構成比58.3%)、畑が58,858ha(構成比34.3%)、樹園地が12,643ha(構成比7.4%)で

表-1 総農家数及び専業別農家数 (単位:戸,%)

区 分	総農家数	専業農家数	兼業農家			
			計	第1種兼業	第2種兼業	
実数	昭和50年	181,074	24,831	156,243	63,451	92,792
	55	172,918	24,225	148,693	47,549	101,144
	60	164,353	22,314	142,039	37,652	104,387
増減数	50～55	△8,156	△606	△7,550	△15,902	8,352
	55～60	△8,565	△1,911	△6,654	△9,897	3,243
増減率	(55-50)/50	△4.5	△2.4	△4.8	△25.1	9.0
	(60-55)/55	△5.0	△7.9	△4.5	△20.8	3.2
構成比	50	100.0	13.7	86.3	35.0	51.3
	55	100.0	14.0	86.0	27.5	58.5
	60	100.0	13.6	86.4	22.9	63.5

表-2 総人口及び農家人口率 (単位:人,%)

区 分	総人口①	総農家人口②	農家人口率②/①	
実数	昭和50年	2,309,259	891,298	38.6
	55	2,524,376	838,191	33.2
	60	2,699,638	790,828	29.3

表-3 経営耕地面積 (単位:ha,%)

区 分	総経営耕地面積	田	畑	樹園地	
実数	昭和50年	187,098	101,343	70,928	14,828
	55	180,244	103,552	62,950	13,742
	60	171,451	99,950	58,858	12,643
増減数	50～55	△6,854	2,209	△7,978	△1,086
	55～60	△8,793	△3,602	△4,092	△1,099
増減率	(55-50)/50	△3.7	2.2	△11.3	△7.3
	(60-55)/55	△4.9	△3.5	△6.5	△8.0
構成比	50	100.0	54.2	37.9	7.9
	55	100.0	57.5	34.9	7.6
	60	100.0	58.3	34.3	7.4

ある。

前回と比較すると、総経営耕地面積は8,793ha(4.9%)減少し、その内訳は、田が3,602ha(3.5%)、畑が4,092ha(6.5%)、樹園地が1,099ha(8.0%)の減少であり、構成比においては大きな変動はない。

農家一戸当たりの耕地面積は、前回同様1.04ha

であるが、農業を主とする人一人当たりの経営耕地面積は、前回と比較すると0.05ha増加して、0.70haである。(表-3、表-4)

4. 作物の類別収穫面積

作物の類別収穫面積は、前回と比較すると、9,357ha(5.6%)減少し、158,269haとなった。これは増減率からいえば、農家人口の減少率の5.6%と偶然一致するものである。

増減数の大きいものとしては、稲が5,975ha減少したが、全体に占める構成比で見ると、稲だけで60.6%を占め、大きな変動もなく推移してきている。(表-5)

5. 果樹栽培農家数と面積

果樹栽培農家数は、前回と比べると256戸(1.1%)、わずかに増加しているが、栽培面積においては11,757a(1.5%)の減少である。その中で栗の栽培農家数は、前回と比較すると629戸(4.2%)減少しているが、構成比において60.3%と、大半を占めているのが特徴である。

一戸当たりの面積においても、前回の33.5aか

表-4 農家一戸当たりの経営耕地面積等(単位:ha)

区 分		総 経 営 耕 地 面 積	田	畑	樹 園 地
農 家 一 戸 当 た り の 耕 地 面 積	昭和50年	1.03	0.56	0.39	0.08
	55	1.04	0.60	0.36	0.08
	60	1.04	0.61	0.36	0.08
農 業 を 主 と す る 人 一 人 当 た り の 面 積	50	0.60	0.33	0.23	0.05
	55	0.65	0.37	0.23	0.05
	60	0.70	0.41	0.24	0.05

ら、今回32.6aと、大きな変動はない。(表-6)

6. 施設園芸のある農家数と施設面積

施設園芸のある農家数は、前回と比較すると1,268戸(18.0%)増加し、8,302戸である。また、施設面積も前回と比較すると、ハウスは50,390a(47.0%)増加し、157,628aとなり、ガラス室は170a(10.1%)増加し1,853aである。

施設面積規模別農家数を前回と比較すると、施設面積20a以上の農家は1,091戸(45.9%)増加し3,470戸となり、経営規模の大規模化傾向が見受けられ、また一戸当たりの施設面積も、前回と比較すると3.7a(23.9%)増加して、19.2aである。

表-5 作物の類別収穫面積

(単位:ha,%)

区 分		総 数	稲	麦 類	雑 穀	いも類	豆 類	工 芸 作 物 類	野 菜 類	花 き 類 花 木 ・ 芝	種 苗 木 類	飼 料 用 作 物	そ の 他 の 作 物
実 数	昭和50年	176,937	110,297	11,217	438	5,273	3,294	16,346	22,970	3,386	505	3,098	113
	55	167,626	101,863	13,008	1,129	6,783	3,801	12,781	21,782	2,660	423	3,082	314
	60	158,269	95,888	11,792	900	7,433	9,148	4,903	20,549	2,890	430	3,688	648
増 減 数	50 ~ 55	△9,311	△8,434	1,791	691	1,510	507	△3,565	△1,188	△726	△82	△16	201
	55 ~ 60	△9,357	△5,975	△1,216	△229	650	5,347	△7,878	△1,233	230	7	606	334
増 減 率	(55-50)/50	△5.3	△7.6	16.0	157.8	28.6	15.4	△21.8	△5.2	△21.4	△16.2	△0.5	177.9
	(60-55)/55	△5.6	△5.9	△9.4	△20.3	9.6	140.7	△61.6	△5.7	8.7	1.7	19.7	106.4
構 成 比	50	100.0	62.3	6.4	0.3	3.0	1.9	9.0	13.0	1.9	0.3	1.8	0.1
	55	100.0	60.7	7.8	0.7	4.0	2.3	7.6	13.0	1.6	0.3	1.8	0.2
	60	100.0	60.6	7.4	0.6	4.7	5.8	3.1	13.0	1.8	0.3	2.3	0.4

調査から

7. 家畜・家きん及び掃立卵量

家畜・家きんの飼養農家戸数は、前回と比較すると6,715戸(32.3%)減少し、14,100戸である。掃立卵量においては、1,971戸(29.5%)減少し、4,710戸と、いずれも大幅に減少しているが、全体的にみて、いずれも飼養農家戸数が減っている中において、飼養頭羽数が増えているのが対照的である。特に、豚においては、飼養農家戸数が前回より4,338戸(42.3%)の減少でありながら、一戸当たりの飼養頭数においては57.3頭から102.8頭へと、大幅に増えているのが特徴である。小規

模経営農家の減少と、経営規模拡大の進んでいることがわかる。(表-7)

8. 農業用機械(個人有農家数と台数)

農業用機械は、前回と比較すると、小型機械である歩行型耕うん機が、9,621台(8.1%)減少し、109,058台となり、バインダーにおいては、571台(0.9%)減少し、61,149台となった。そのほかに米麦用乾燥機の5,012台(6.0%)の減少があるが、大型機械はいずれも増加しており、特に農用トラクター(30馬力以上)の2,064台(123.7%)が著しい。これは、全体的に農家数が減少しているにもかかわらず

表-6 果樹栽培農家数と面積

(単位:戸, a, %)

区 分		総 数	りんご	ぶどう	日 本 な し	も も	温 州 みかん	夏みかん	その 他の かん きつ類	か き	く り	う め	その 他の 果樹	すもも	
栽培農家数	昭和50年	26,152	155	624	3,995	178	433	51	—	1,705	16,031	—	2,980	—	
	55	23,295	107	646	3,604	60	251	2	5	1,468	14,807	2,050	295	168	
	60	23,551	120	713	3,351	47	133	13	74	1,753	14,178	2,784	385	131	
栽培面積	50	830,869	5,118	16,978	126,353	2,963	6,785	738	—	34,302	598,511	—	39,121	—	
	55	779,501	4,338	20,823	135,535	836	4,400	10	42	29,961	555,342	23,041	5,173	2,908	
	60	767,744	4,222	23,608	152,241	696	2,451	197	846	37,130	513,249	27,615	5,489	1,693	
増減数	栽培農家	50～55	△2,857	△48	22	△391	△118	△182	△49	—	△237	△1,224	—	△2,685	—
		55～60	256	13	67	△253	△13	△118	11	69	285	△629	734	90	△37
	栽培面積	50～55	△51,368	△780	3,845	9,182	△2,127	△2,385	△728	—	△4,341	△43,169	—	△33,948	—
55～60		△11,757	△116	2,785	16,706	△140	△1,949	187	804	7,169	△42,093	4,574	316	△1,215	
増減率	栽培農家	(55-50)/50	△10.9	△31.0	3.5	△9.8	△66.3	△42.0	△96.1	—	△13.9	△7.6	—	△90.1	—
		(60-55)/55	1.1	12.1	10.4	△7.0	△21.7	△47.0	550.0	1,380.0	19.4	△4.2	35.8	30.5	△22.0
	栽培面積	(55-50)/50	△6.2	△15.2	22.6	7.3	△71.8	△35.2	△98.6	—	△12.7	△7.2	—	△86.8	—
		(60-55)/55	△1.5	△2.7	13.4	12.3	△16.7	△44.3	1,870.0	1,914.3	23.9	△7.6	19.9	6.1	△41.8
構 成 比	栽培農家	50	100	0.6	2.4	15.3	0.7	1.7	0.2	—	6.5	61.2	—	11.4	—
		55	100	0.5	2.8	15.4	0.3	1.1	0.0	0.0	6.3	63.5	8.8	1.3	—
		60	100	0.5	3.0	14.2	0.2	0.6	0.1	0.3	7.4	60.3	11.8	1.6	—
	栽培面積	50	100	0.6	2.0	15.2	0.4	0.8	0.1	—	4.1	72.1	—	4.7	—
		55	100	0.6	2.7	17.4	0.1	0.6	0.0	0.0	3.8	71.1	3.0	0.7	—
		60	100	0.6	3.1	19.8	0.1	0.3	0.0	0.1	4.8	66.9	3.6	0.7	—
一戸の面積	50	31.8	33.0	27.2	31.6	16.6	15.7	14.5	—	20.1	37.3	—	13.1	—	
	55	33.5	40.5	32.2	37.6	13.9	17.5	5	8.4	20.4	37.5	11.2	17.5	17.3	
	60	32.6	35.2	33.1	45.4	14.8	18.4	15.2	11.4	21.2	36.2	9.9	14.3	12.9	

わらず、大規模経営農家数が増加しているあらわれでもある。

9. 保有山林面積規模別農家数と保有山林面積

農家林家は前回と比較すると、10,145戸(19.4%)減少し、42,292戸となり、保有山林面積は13,630ha(16.0%)減少し、71,501haである。

保有山林のない農家(0.1ha未満の山林を保有している農家を含む)は、前回と比較すると1,580戸(1.3%)増加したが、保有山林が0.1ha以上ある農家は各規模とも減少している。中でも減少率の高い規模は0.1～1.0haの7,393戸(22.5%)、100ha以

上の8戸(47.1%)である。

10. 農家以外の農業事業体経営形態別事業体数

経営形態別事業体数は、前回と比較すると、37事業体(15.2%)増加し、281事業体である。

協業経営体が、前回と比べると、30事業体(107.1%)増加し、58事業体となり、その他(農業集落、青年団等経営)が、35事業体(55.6%)減少しているのが特徴として挙げられる。農業をめぐる厳しい環境の中で、事業体数は総体的に増加している。

(統計課・農林経済グループ)

表一七 家畜・家きん及び掃立卵量

(単位:戸,頭,羽,箱,%)

区 分		総 数 (養蚕農家 を除く)	乳 用 牛	肉 用 牛	豚	鶏	ブロイラー	掃立卵量 (養 蚕)	
飼 養 農 家 数	昭 和 50 年	37,048	3,143	6,599	16,361	10,458	487	9,105	
	55	20,815	2,243	4,938	10,266	3,001	367	6,681	
	60	14,100	1,894	4,007	5,928	2,028	243	4,710	
飼 養 頭 羽 数	50		41,952	24,474	515,380	2,364,725	7,363,200	123,366	
	55		43,307	29,963	588,629	2,195,336	8,943,200	110,358	
	60		48,627	37,888	609,542	2,675,960	8,973,700	74,904	
増 減 数	飼 養 農 家 数	50 ~ 55	△16,233	△900	△1,661	△6,095	△7,457	△120	△2,424
		55 ~ 60	△6,715	△349	△931	△4,338	△973	△124	△1,971
	飼 養 頭 羽 数	50 ~ 55		1,355	5,489	73,249	△169,389	1,580,000	△13,008
		55 ~ 60		5,320	7,925	20,913	480,624	30,500	△35,454
増 減 率	飼 養 農 家 数	(55-50)/50	△43.8	△28.6	△25.2	△37.5	△71.3	△24.6	△26.6
		(60-55)/55	△32.3	△15.6	△18.9	△42.3	△32.4	△33.8	△29.5
	飼 養 頭 羽 数	(55-50)/50		3.2	22.4	14.2	△7.2	21.5	△10.5
		(60-55)/55		12.3	26.4	3.6	21.9	0.3	△32.1
構 成 比	飼 養 農 家 数	昭 和 50 年	100.0	8.5	17.8	44.2	28.2	1.3	—
		55	100.0	10.8	23.7	49.3	14.4	1.8	—
		60	100.0	13.4	28.4	42.1	14.4	1.7	—
飼養農家一 戸当たりの 飼養頭羽数		50		13.3	3.7	31.5	226.1	15,119.5	13.6
		55		19.3	6.1	57.3	731.5	24,368.4	16.5
		60		25.7	9.5	102.8	1,319.5	36,928.8	15.9

(注) ブロイラーについては調査期日前1年間の出荷羽数である。